



中高生とともに差別と闘う

『二〇一六年成人式祝辞』

吉成タダシ



まず関心、そして問題意識

先日、同じクラスだったユウカから連絡がありました。会ってみると、帰りがけになって、ようやくこんな話を切り出しました。

「高校のときに仲良くなった女友達で、小中学校できちんと人権学習してきた子がいるんだけど。その子にできた彼氏が地区の子で。けど彼は地区のことは全然言わなかったらしくて。結局別の理由で別れたんだけど。そのままつきあっても結婚できるかって言われたら、腰が引けてしまうかもっていう話をいつも二人でしてて……」

私のなかで、熱い感情がふつふつと湧き起こってきました。結論から言えば、望ましい意識にはほど遠いのですが、決して部落問題に無関心ではありません。そして問題意識をもつ友達とつながって、何とか答えを導き出そうとしています。湧き起こってきた感情は、そんな若い二人の姿勢に対する嬉しさでした。

彼女は続けて言いました。

「こんなこと、教わらない方が良かったのかもしれない。教わったから却って意識してしまう。教わらなかつたら意識することもないし、彼氏のことで悩むこともなかったのかも……」

本当の思いを素直に、けど苦しそうに話してくれる、そのストレートな思いを捨て置けずに応えました。「教わらなくても、彼氏本人が言わなくても、知ることはある。その

ときに、マイナスの出会いになるのではなくて、プラスの出会いにするために学んできた。知ったうえで、乗り越えられるユウカであってほしい」

結びつかない差別意識

そう言う私に小さくうなずき、こんな質問を投げかけてきました。

「まだ、部落差別ってあるの？」

「腰が引けてしまう」という自分の差別意識と、自分の中にある部落差別のイメージが結びついていないということを象徴するこの問いに私自身驚くのですが、彼女のストレートな思いに、率直に答えました。

「ユウカたちの、腰が引けてしまっている意識こそが、部落差別じゃないかな？」

「あ、そうか……」

ストンと腑に落ちたところで、昨年、コウキから連絡があった「身上書の件」についての話をして、こんなことを訊いてみました。

「ユウカは、中三のときに学習した『就職差別につながる十四項目』の授業って、覚えてる？」

「うん、覚えてる」

あつさりとして即座に言っただけ、そのときにした授業の詳細をすらすらと話し始めたことに驚き、ついつい「よく覚えてるなー！」と感嘆の声をあげてしまいました。

そして彼女はこう言うのです。

「どうしてこんな差別が起こって、今もあるのか。それが分からないもって知りたい」

「いくらでも話すから」と言っただけ、その日は別れたのですが、つくづく人の出会いとは不思議なものだと思わせられます。受験科目の授業も大事でしょう。けれど、人権学習にヒットする子も確実にいるということなんです。そんな子たちの思いを裏切らない大人であり続けたいなと、あらためて思わせられました。

二〇一六年成人式祝辞

「励ましの手紙」に取り組んだ前年の、前任校で別な形で「家族の絆」を確かめ合う卒業式に挑んでいました。その卒業式も実に立派で、涙々の思い溢れる式でした。ちょうど今春に成人した子どもたちですから、今から五年前の卒業式ということになります。

今春、そんな子どもたちの成人式にお招きいただき、少しだけお話をさせていただく機会をいただきました。

「本日は成人式にお招きいただき、ありがとうございます。保護者のみなさま、お子さまの『成人、本当におめでとう』ございます。そしてみなさん、成人おめでとう。久しぶりです。元気でしたか。五年前から、この日をずっと待ちわびていました。」

昨年の暮れ、今日のあいさつのお話をいただいて以来、年末から年始にかけて、ずっとみなさんのことを復習していました。当時の記録に目を通し、思い出のDVDを見、二月

二十四日の最後の道徳の授業の映像を見ました。本当に懐かしかったですし、思いがいっぱい溢れてきて熱い気持ちになりました。特に、三年生、二学期後半からの語り合いは本当に見事でした。壮絶でした。

道徳の時間にみなさんにと提示してきたテーマ、覚えてますか？「家族の絆・故郷への思い」です。どんな資料を使っても、常にごのテーマで、集団で語り合う人権学習を行ってきました。あの学習がみなさんにもたらしたものは、いったい何だったのでしょうか。

いじめや差別は許さない、人権教育・人権学習は大切だということでしょうか。

仲間と共に力を合わせ、共に伸びていくということでしょうか。

自らすすんで学ぶことの大切さでしょうか。

人の気持ちを汲み取るということでしょうか。

一人一人、ありのままの自分でいいということでしょうか。

この中学校が好き、この町が好き、この故郷が好きということでしょうか。

自分なりの考えをしっかりとつとめるということでしょうか。

人とコミュニケーションをとることの大切さでしょうか。

人前でも堂々と自分の考えや思いを表明することでしょうか。……(つづきは次号)「

(次号「キレイゴトを貫く」)